

# 学習講演会全体のQ & A

お寄せいただいたアンケートの質問欄で寄せられた内容に回答を行いました。講演者や報告者への直接的な質問は報告者をお願いしました。共通すると思われる内容は実行委員会にて回答いたしました。実践的な内容であることはお了解いただきたいと思います。

**Q：地域包括支援センター職員として60万都市の鹿児島市で、どのようなところから地域づくりをはじめれば良いでしょうか？**

A：鹿児島市は17の地域包括支援センターを抱えています。町村の地域包括支援センターが17個あるのだと思います。町村で行われているような地域づくりをそれぞれのエリアで行うことだと考えます。ご近所とのつながりは希薄と言われますが、様々な団体や事業者が活動しているという特徴もあります。地域の実情に合わせた地域づくりをご一緒にすすめていきましょう。

**Q：50代、60代の男性が参加しやすい地域づくりの活動には、どのようなものがありますか？**

つながりマップはどこまで作って、どこまでは作らないという、線引きをどのようにされているのでしょうか？

A：年代に限らず男性の活動への働きかけは共通の課題となっています。さまざまな取り組みを重ねていくことが必要だと思います。

全国では協同農園をサロンとして行っている事例もあります。

県内では宇検村では男性の趣味サークル（囲碁、将棋など）を立ち上げています。

まずは、①趣味サークルなどで男性同士の仲間づくりから始め、

②夏休み時に小学生との世代間交流も含めた指導（囲碁教室、将棋教室など）、

③趣味サークルを開催している会場や周辺の草払いなどのボランティア活動、

④地域での活動と段階的に働きかけるように計画しているとのことでした。

このような事例を各地域地域で重ね合わせていきましょう。

Q : 各取組みの中で拠点までの移送の問題はないのでしょうか？

皆が歩いてこれるわけではないと思いますが、移送が必要な方の支援はどうしていますか？私たちの所も大きな課題となっています。

A : 確かに拠点で活動する場合は移送の問題が必ずあります。「バス停を近くに設置できないか」とか・・・いろいろ出されるようですが、今のところ、どこも妙案は無いようです。

ある市では『それなら、もっと小さい単位の集まれる場所をつくることで参加しやすいのでは』とのことで、自治会単位のサロンが作っています。拠点での食事会などのイベントの際は、乗り合わせで参加される方もいます。あくまでも送迎はないという前提で活動をとしているということです。

Q : 「地域主体」ということで、リーダー・中心になる方の発掘はどのようにしているか知りたいです。

A : さまざまなお立場はあろうかと思いますが、「人は育てる」ものだと思います。

ある市の担当者は「校区社協や地域福祉コーディネーター・民生委員・在宅福祉アドバイザーなど、日頃から会議に積極的に出ることで顔の見える関係をつくり、声をかけたり情報をいただいたりしています。」とのことでした。

Q : 本資料 11 ページの 県内市町村の保険料の推移で三島村だけが下がっていますがなぜでしょうか？

A : 役場に照会いたしました。

三島村は村外で介護サービスを受ける人が多く、これまで介護保険を使ったサービス利用が少なかったようです。これからの 7 期の計画では大幅に引き上げざる得ない状況のようです。

Q : 他団体との連携を考えていますか？

A : 報告団体問わず、行政や地域包括支援センター、事業にとっても、くらしを支援するためには連携が必要です。そのためには、それぞれに知りあうことが必要です。連携の質と頻度を高める工夫がそれぞれに必要と思います。

Q：空き家対策の話詳しく聞きたい。

私たちのところも空き家があり、充分使えそうな所もあることから活動拠点づくりになるようです。

A：今回、事例発表された2団体も空き家を活用した取り組みとなっています。

肝付町のいったんもめんと結いの会は、地域の個人住宅を活用した事例で、曾於市柳迫校区「皆来館」は駐在所跡地を活用した事例です。

県内各地でも様々な取り組みが行われ、徐々に広がっているところです。地域住民の活動拠点として活動を行っている事例をいくつかご紹介いたします。

湧水町の「よしまつふれあいの家」では、小学校校長住宅跡地が活用されています。

西之表市の「ふるた結の里」では、保育所跡地を活用して、地域住民による活動が展開されています。

始良市の「ひまわりハウス」では、NPO団体が自治会などと連携し、住民主体の活動を実践しています。

住民の関心の高いテーマでもあります。積極的に情報交換しながら広げていきましょう。